



**株式会社スターフライヤー：  
SAP Business One®で予算実績管理の  
品質向上と決算の短期化を実現**

## 概要

会社紹介

導入の背景/目的

SAP 選択の理由

導入ハイライト

ソリューションの活用

導入効果

今後の計画

## 社名

株式会社スターフライヤー

## 業種

航空

## 事業内容

定期航空運送事業

## Web サイト

[www.starflyer.jp](http://www.starflyer.jp)

## SAP® ソリューション

SAP Business One®

## パートナー

株式会社日立システムズ

ロータスビジネスコンサルティング株式会社



「感動のあるエアライン」として、北九州をベースに国内線5路線を展開する株式会社スターフライヤー。同社は会計システムの刷新を機に、SAP Business Oneを導入。パートナーが提供する配賦モジュールとの組み合わせにより、**コストの見える化、部門別・路線別での予実把握、決算の短期化**など明確な導入効果을上げています。

概要

会社紹介

導入の背景/目的

SAP 選択の理由

導入ハイライト

ソリューションの活用

導入効果

今後の計画

## 多便数シャトル便を早朝から深夜まで運航 顧客に感動を与える高品質サービスを提供

2006年3月、福岡県の北九州空港を拠点として就航し、現在は国内5路線を運航する株式会社スターフライヤー。「感動のある航空会社」を事業理念に掲げ、お客様や社会に対して、新しい航空輸送サービスを展開しています。

規模より質を重視する当社では、小型機ながら早朝から深夜まで運航する多便数のシャトル便、他社エコノミークラスより間隔が広くゆったりと過ごせる座席、上質感のある革張りシート、オリジナルブレンドのコーヒー、国内では珍しい個人用TVモニターなど、ワンランク上の品質とサービスをお客様に提供しています。

他の航空会社との明確な差別化を図るため、徹底した低コスト体制を貫く同社は、大手に比べ割安の航空運賃を堅持しながら、2014年3月には、前年の31%増となる330億2,400万円の売上を実現。ビジネス拠点としては、北九州空港内にある本社、北九州空港支店に加え、羽田空港支店、関西空港所、福岡空港支店、中部空港所、そして山口宇部空港所があります。仕事を楽しみ、その楽しさをお客様と分かち合うことに喜びを感じる598名(2014年3月末現在)の従業員が、日々の業務を支えています。



# 330億円

2014年3月期売上高  
(2013年3月期売上高  
251億円からの大幅増収)

## 概要

## 会社紹介

## 導入の背景/目的

## SAP 選択の理由

## 導入ハイライト

## ソリューションの活用

## 導入効果

## 今後の計画

## 旧会計システムの老朽化対策が不可避に “コストの見える化”に向けシステムを刷新

スターフライヤーのコア戦略とも言える高い品質を提供し続けるには、コスト競争力の維持・改善が不可欠となります。そのため「コストの見える化」を推進することがビジネス上の重要課題でした。

しかし、2006年の就航前に導入し、8年以上活用してきた同社の会計パッケージシステムには、多くの課題が浮上していました。たとえば、法改正への対応、整備業務や顧客管理など社内の周辺システムとの連携が困難でした。

当時の状況を振り返り、株式会社スターフライヤー 経営企画本部 財務経理部長の堀川久氏は次のように振り返ります。

「コストを可視化するための路線別収支計算や、財務会計の決算作業については、Excelを使った手作業による運用が中心でした。システムの連携は、周辺システムから出力した会計連動用の仕

訳 CSV ファイルを会計システムにインポートする形で行っていました。このように手作業が中心だったため、効率低下に加え、路線拡大に伴うデータ量の増加に耐えることが難しくなっていました」

スターフライヤーでは、これらの問題を解消するために、会計業務で使用する新たなシステムの構築を決定。システム化の目的として3つのテーマを掲げます。1つ目は、見える化による社内予算実績管理の向上。2つ目は、路線別収支をタイムリーかつ人手をかけずに把握すること。そして3つ目は、財務会計における決算の早期化でした。

これらのテーマを当面のゴールと位置づけ、同社は新システムの選定を開始しました。

「当社のコア戦略である高い品質を提供し続けるには、コスト競争力の維持・改善が不可欠となります。具体的な施策として“コストの見える化”を推進することが重要課題となりました」

堀川久氏 株式会社スターフライヤー 経営企画本部 財務経理部長

概要

会社紹介

導入の背景/目的

SAP 選択の理由

導入ハイライト

ソリューションの活用

導入効果

今後の計画

## スモールスタートが可能なSAP Business One®と配賦モジュールの組み合わせを評価

新たな会計システムのソリューション選定にあたって、スターフライヤーが提示したRFPには、会計処理の実現、社内の担当者が自分でコストを確認できるようなBI（ビジネスインテリジェンス）とレポーティング機能の実現などが盛り込まれました。

選定の経緯について、堀川氏は次のように語ります。

「数社から提案されたERPシステムは、会計機能にフォーカスした当社の目的にはオーバースペックで、コストも割高でした。その点SAP Business Oneは、多言語・多通貨対応など機能も充実しているながら、他製品よりも2割程度安価で、会計機能モジュールだけを使用することもできるため、今回の要件に合致すると考えました。そこでSAP Business Oneに絞り込み、パートナーの選定を行いました」

複数の提案を検討する中で、同社はロータスビジネスコンサルティング株式会社が提供する配賦モジュールを活用することで、開発コストを大幅に抑えられる点に着目しました。また、BIソフトウェアを別途組み合わせるとコストが上がるため、BI機能をどのように実現するかもポイントだったといいます。

最終的に、豊富な導入実績を持つSAP Business Oneと配賦モジュールの組み合わせ、さらにBI機能を最小限のコストで実現するというロータスビジネスコンサルティングの提案が、スターフライヤーの要件に確実に対応できるものとして採用されました。



豊富な機能と  
コストパフォーマンスに優れた  
SAP Business Oneを採用

概要	<h2>カスタマイズやアドオンの使用を最小限に抑え</h2>	
会社紹介	<h2>「顧客主導のデータシステム移行」でノウハウを蓄積</h2>	
導入の背景/目的		
SAP 選択の理由	<p>こうしてスターフライヤーは、新システム構築プロジェクトを開始します。</p> <p>「SAP Business One の財務会計機能のみを使用し、周辺の既存システムについては今回は刷新しない。さらに、極力カスタマイズやアドオン開発は行わず業務をシステム側に合わせるなど、スモールスタートを基本としました」(堀川氏)</p>	<p>財務経理部を統括する堀川氏と、経営企画本部 IT 推進部長の藤谷健氏の2名をトップとするプロジェクトは、数名の内部スタッフと、システム面を支援するロータスビジネスコンサルティングによって構成されました。</p>
<b>導入ハイライト</b>		<p>「カットオーバー後、事あるごとに外部に作業を依頼することは非効率と考え、自社で対応できるマスターやトランザクションデータの移行作業などはできる限り社内で行う『顧客主導のデータシステム移行』を推進しました。これにより社内にノウハウが蓄積され、システムのブラックボックス化を防ぐことができます」(堀川氏)</p>
ソリューションの活用	<p>ただし、効率化に必要な機能のみアドオン開発を行うというアプローチを取り、債権の入金自動消込モジュールのみをこの対象としました。</p>	
導入効果		<p>確実な開発ポリシーと適切な役割分担により、新システムの構築プロジェクトは順調に進み、2014年3月、無事カットオーバーを迎えました。</p>
今後の計画		

「カットオーバー後、事あるごとに外部に作業を依頼することは非効率と考え、自社で対応できるマスターやトランザクションデータの移行作業などはできる限り社内で行う『顧客主導のデータシステム移行』を推進しました」

堀川久氏 株式会社スターフライヤー 経営企画本部 財務経理部長

概要	<h2>周辺システムと連携し、SAP Business Oneで 2万件におよぶ配賦パターンを自動化</h2> <p>スターフライヤーは、当初掲げた「見える化による社内予算実績管理の向上、タイムリーかつ人手をかけない路線別収支の把握、財務会計における決算の早期化」という3つの要件をSAP Business Oneで実現しました。</p> <p>経理部門では、SAP Business Oneからの会計データをシステム連携でデータベースに自動出力し、同データベース上のレポート機能で表示することで、ほぼリアルタイムな可視化を実現。手作業によるデータ連携やデータ抽出のためのSQL文発行など、システム部門に依頼する形でしか実施できなかった処理が各担当者の操作で実現できるようになり、大幅な効率化が実現しました。</p> <p>今回、スターフライヤーのシステムで実現した配賦処理の規模も特筆すべき点です。以前の手作業では実質的に対応が困難であった配賦パターンの実装が、パートナーの配賦モジュールの活用により自動化されました。</p> <p>配賦モジュールでは、ユーザが設定する500件の配賦ルールを展開し、2万件におよぶ配賦パターンとして計算を行います。</p> <p>また同社では以前から、さまざまなWebベースの仕組みを構築していましたが、SAP Business OneにはWebベースのシステムとの連携を実現するためのWebサービスインターフェースが用意されています。これを活用することで、Webを使ってSAP Business One内にダイレクトにデータを送り込むことができる仕組みを内製で開発することができました。</p>
会社紹介	
導入の背景/目的	
SAP選択の理由	
導入ハイライト	
<b>ソリューションの活用</b>	
導入効果	
今後の計画	

概要

会社紹介

導入の背景/目的

SAP 選択の理由

導入ハイライト

ソリューションの活用

導入効果

今後の計画

## 決算を2日短縮し路線別収支の算出時間も6分の1に 予算実績管理の品質を向上

SAP Business Oneの導入効果は、複数の面で明確に現れました。「SAP Business Oneと周辺システムのダイナミックな連携が可能となったことで、決算処理を約2日短縮することができました。また、以前は手作業で行い、3人日はかかっていた路線別の収支を把握するための配賦処理を、約6分の1の半日で完了できるようになりました。また、手作業ではカバーできなかった膨大な仕分けルールを自動化できたことで、以前は直課できなかった費用についても対応が可能となり、より詳細で精度の高い配賦処理が実現しました」(堀川氏)

さらに経理部門だけでなく、他の部門にもメリットが生まれたと、経営企画本部 IT推進部長の藤谷健氏は語ります。

「以前のシステムでは、各部門のスタッフが超過や未消化といったコストの詳細を把握しようとすると、財務経理部に紙ベースで依頼する必要がありました。このため、内容を把握できるまでに時間がかかり、迅速かつ確実に管理を行うことが困難でした。新システムでは、SAP Business OneとBIシステムが提供するレポート機能により、各担当者が自分自身でリアルタイムにコストを確認できるようになったことで、内容を把握するまでの待ち時間がほぼなくなりました」

---

「SAP Business OneとBIシステムが提供するレポート機能により、各担当者が自分自身でリアルタイムにコストを確認できるようになったことで、内容を把握するまでの待ち時間がほぼなくなりました」

藤谷健氏 株式会社スターフライヤー 経営企画本部 IT推進部長

概要

会社紹介

導入の背景/目的

SAP 選択の理由

導入ハイライト

ソリューションの活用

導入効果

今後の計画

## 機内販売などの在庫管理にも SAP Business Oneを活用

今回は、システム刷新プロジェクトの最初のステップとして、経理部門を中心に確実な効率化を実現したスターフライヤー。次のステップでは、SAP Business One が提供する機能を、経理部門以外に対しても積極的に展開していこうと考えています。

「当社は今後も継続して社内の構造改革を進めていきます。今回のスモールスタートを足掛かりに、SAP Business One の財務会計以外の機能についても活用を拡大していく予定です。具体的には、機内販売商品や事務関連の棚卸品などの在庫管理についての適用を考えています」(堀川氏)

常にホスピタリティをもってお客様に接し、新たな感動を与えることができる航空会社であり続けるスターフライヤー。同社の経営を支える SAP Business One の可能性は、今後も大きく広がっていきます。

お問い合わせ先  
[www.sap.com/japan/contactsap/](http://www.sap.com/japan/contactsap/)  
0120-786-727 (受付時間: 平日 9:00~18:00)



© 2015 SAP SE or an SAP affiliate company. All rights reserved.

本書のいかなる部分も、SAP SE または SAP の関連会社の明示的な許可なくして、いかなる形式でも、いかなる目的にも複製または伝送することはできません。

本書に記載された情報は、予告なしに変更されることがあります。SAP SE およびその頒布業者によって販売される一部のソフトウェア製品には、他のソフトウェアベンダーの専有ソフトウェアコンポーネントが含まれています。製品仕様は、国ごとに変わる場合があります。

これらの文書は、いかなる種類の表明または保証もなしで、情報提供のみを目的として、SAP SE またはその関連会社によって提供され、SAP またはその関連会社は、これら文書に関する誤記脱落等の過失に対する責任を負うものではありません。SAP またはその関連会社の製品およびサービスに対する唯一の保証は、当該製品およびサービスに伴う明示的保証がある場合に、これに規定されたものに限られます。本書のいかなる記述も、追加の保証となるものではありません。

特に、SAP SE またはその関連会社は、本書もしくは関連の提示物に記載される業務を遂行する、またはそこに記述される機能を開発もしくはリリースする義務を負いません。本書、もしくは関連の提示物、および SAP SE もしくはその関連会社の戦略ならびに将来の開発物、製品、および/またはプラットフォームの方向性ならびに機能はすべて、変更となる可能性があり、SAP SE もしくはその関連会社により随時、予告なしに変更される場合があります。本書に記載する情報は、何らかの具体物、コード、もしくは機能を提供するという確約、約束、または法的義務には当たりません。将来の見通しに関する記述はすべて、さまざまなリスクや不確定要素を伴うものであり、実際の結果は、予測とは大きく異なるものとなる可能性があります。読者は、これらの将来の見通しに関する記述に過剰に依存しないよう注意が求められ、購入の決定を行う際にはこれらに依拠するべきではありません。

本書に記載される SAP およびその他の SAP の製品やサービス、ならびにそれらの個々のロゴは、ドイツおよびその他の国における SAP SE (または SAP の関連会社) の商標もしくは登録商標です。本書に記載されたその他すべての製品およびサービス名は、それぞれの企業の商標です。商標に関する詳細の情報や通知に関しては、<http://global.sap.com/corporate-en/legal/copyright/index.epx> をご覧ください。



The Best-Run Businesses Run SAP®